

# 品目：かき

環境こだわり農産物の基準（5割以下の基準）

化学合成農薬（延べ使用成分数） 10成分以下

化学肥料（窒素分量） 10kg/10a 以内

## 技術体系例：かき

生育ステージ	休眠期		発芽直前	2～5葉展葉期	落花期		果実肥大期									
	収穫後	落葉後			11～12月	3月下旬	4月下旬～5月上旬	6月上旬	6月中	6月下旬	7月下旬	8月上旬	8月中	8月下旬	9月上旬	
防除時期																
防除方法・使用資材・薬剤等	罹病枝等の園外持ち出し 卵塊・繭の除去、 粗皮削り		殺虫剤	殺虫殺菌剤 バンド誘殺除去	(臨時防除) 殺虫剤 被害葉の除去 反射マルチ敷設	殺菌剤	殺虫剤	B T 剤	殺菌剤	殺虫剤	殺虫剤	殺虫剤	B T 剤 (臨機防除) 殺虫剤	殺菌剤	バンド誘殺	(臨機防除) 殺虫剤
炭そ病	★					●		●						●		
落葉病	★					●		●						●		
うどんこ病	★					●		●						●		
カキノヘタムシガ		★					●	★		●	●	★	●		★	●
カキクダアザミウマ		★			★		●*2		●		●		●*2		★	●
カキノヒメヨコバイ							●						●			
チャノキイロアザミウマ					★		●*2		●		●		●*2		★	
カメムシ類									●	●						●
イラガ類		★						★		●		★				
マイマイガ		★														
カイガラムシ類		★	★	★	●*1		●		●	●*1			●		★	●*1
ロウムシ類		★							●							
(例) 使用農薬等			マシン油乳95	石灰硫黄合剤	アプロード水和剤	ベルクト水和剤	モスピラン水溶剤	バシレックス水和剤	オンリーワンフロアブル	スプラサイド水和剤	スミチオン水和剤40	M R・ジョーカー水和剤	バシレックス水和剤	モスピラン水溶剤	ストロビードライフロアブル	スタークル顆粒水溶剤
化学合成農薬成分数				(1)		1	1		1	1	1	1		(1)	1	(1)

注) ●：薬剤防除対象病害虫、★：天然資材または耕種的手法

農薬の登録は随時変更があるので、農薬の使用にあたっては、必ず農薬ラベルを確認し適正に使用する。

\*1印のものは、登録の対象害虫等が限られているので登録を確認する。

\*2アザミウマ類で登録されています。

病気 **落葉病** (らくようびょう)



発病初期



落葉病（円星）の病斑

発生しやすい時期

9月上旬頃～10月上旬頃

原因（発生要因）

- ・ 前の年に病気になった落ち葉からうつります。
- ・ 5月頃になるとカビの胞子が飛びはじめてうつります。
- ・ 肥料不足や干ばつ、長雨で根が弱ると出やすくなります。
- ・ 特に5月上旬～7月上旬に雨が多いと出やすくなります。

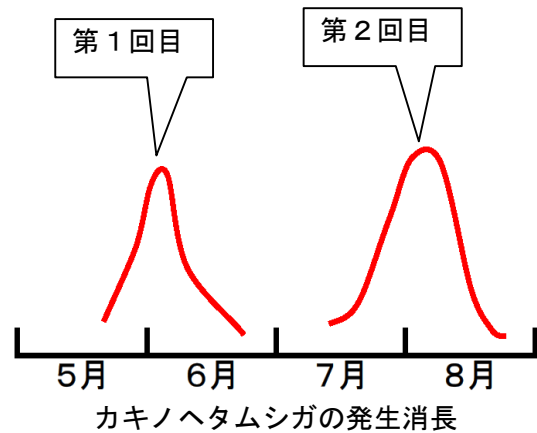
対策（減農薬技術）

- ・ 冬の間には落ち葉を集めて埋めてしまおうか、ほ場の外に持ち出します。
- ・ 樹勢をつよくするために、堆肥などを施用します。

## 害虫 カキノヘタムシガ



第2回目の幼虫による被害と幼虫



### 発生しやすい時期

第1回目の幼虫：5月下旬頃～6月上旬頃。

5～6個の実を食べます。

第2回目の幼虫：7月中旬頃～8月中旬頃

1個の果実を食べ、食べられた実は早く熟して落ちます。

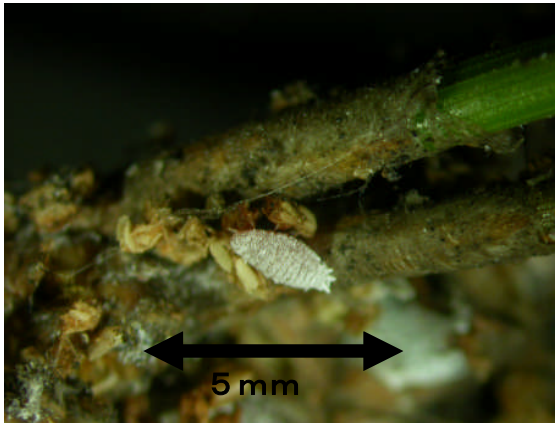
### 原因（発生要因）

- ・ さなぎが、かきの木の粗皮の下や割れ目の間で冬を越します。年2回発生します。
- ・ 実がついている枝の芽に卵をうみつけ、芽を食べながらかきの実に移動します。
- ・ 食べられた実は、へたの部分からふんが外に出ているのでわかります。

### 対策（減農薬技術）

- ・ 8月下旬～9月上旬に、木にコモなどを巻き付け、春に取り外して焼きます（バンド誘殺）。
- ・ 冬（12月～3月）に粗皮削りをします。
- ・ BT剤（化学合成農薬として数えない農薬）を利用します。

## 害虫 **カイガラムシ類**



コナカイガラムシ



粗皮の下で冬を越します

### 発生しやすい時期

種類により発生の状況や回数は異なり、年1～3回発生します。

### 原因（発生要因）

- ・ 幼虫や卵が、粗皮の下などで冬を越します。
- ・ 枝葉や実について、樹液が吸収される被害と、葉や実を黒いカビで汚す「すす病」をおこす被害があります。

### 対策（減農薬技術）

- ・ 8月下旬～9月上旬に、木にコモなどを巻き付け、春に取り外して焼きます（バンド誘殺）。
- ・ 冬（12月～3月）に粗皮削りをします。
- ・ 粗皮削りの後、年内のうちにマシン油乳剤を、発芽前には石灰硫黄合剤を散布します。
- ・ 発生の多い枝の又になった部分はブラシなどでこすり落とします。